

令和 6 年

新 城 市 教 育 委 員 会

7 月 総 合 教 育 会 議 録

令和6年7月第1回総合教育会議 会議録

- 1 日 時 7月30日(火) 午後2時00分から午後3時25分まで
- 2 場 所 新城市役所本庁舎 4階 会議室4-2、4-3
- 3 出席委員
下江洋行市長 安形博教育長 夏目安勝教育長職務代理者 夏目みゆき委員
青山芳子委員 原田真弓委員 鈴木志保委員 伊藤雅朗委員
- 4 説明のため出席した職員
櫻本教育部長 加藤企画部長 原田教育総務課長 中嶋学校教育課長
- 5 書 記
上野教育総務課総務係長
- 6 議事日程
開 会
市長あいさつ
(1) 協議事項
ア 「望ましい教育環境」について(教育総務課)
閉 会

1 開会

○職務代理者

皆様には、本日お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

定刻になりましたので、令和6年度第1回新城市総合教育会議を開催させていただきます。

新城市総合教育会議運営細則第2条第2項に従いまして、教育長職務代理者が司会を行うことになっておりますので、私が会議の進行役を務めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは、会議の開催に当たりまして、下江市長より開会のあいさつを申し上げます。

2 あいさつ

○市長

皆さん、こんにちは。今日の午前中の調理員の皆さんへの感謝状の贈呈式に引き続き、大変お忙しい中、総合教育会議にご出席ありがとうございます。

感謝状贈呈式の際に、教育長さんが、学校給食を8,000食ぐらいこれまでに自分も食べて、体の半分が給食でできているというお話をされたときに思い出したのが、もう数年前ですけれども、学校教育課に異動になられた先生が、学校の教師になってから、お昼給食以外の昼食を、土日は別ですけれども、食べたことがなくて、新しい環境に戸惑ってなかなか慣れることができないということをおっしゃっていました。なるほどな、というふうに思ったんですけれども、本当に学校給食というのは、本当に大切な、大事な食育教育の一環なんだなというふうに、学校給食共同調理場の事業を推進していく中で、本当に強く思うようになりました。

今後においては、この夏休み期間中に、2学期のスタートと同時にしっかり運用できるように準備をしていくという、大変重大な使命がありますので、ぜひ皆様方にもご理解と、また給食につきまして、見守っていただいて、しっかりと進めていければなというふうに思っております。

さて、夏休みに、小学校・中学校の生徒さん入りまして、夏休みに入る前から、この夏祭りが各所で開催をされております。直近では千郷地区の納涼夏祭り大会がございましたし、私も行ってまいりました。それから、鳳来地区においても、長篠、内金地区とか、大野地区でも夏祭りが開催されました。大変多く小学校のお子様、中学校の生徒さん、またこども園の園児さん含めて、子供さんが本当に大勢自由に、夏休み期間中にいろんなところに出て、みんなで集まって楽しむという環境が、本当に今年に入って、去年ぐらいから、ようやくもう感染症の心配もほぼなくなっていて、このような状況になっていることは本当にうれしいことですし、私ども大人もそういう状況を見て元気が出てくる、そんな時を迎えたなというふうに思っております。

さて、今日は、小学校・中学校の教育環境について、望ましい方向性について、皆様方に協議をいただくこととなりますので、私も皆さんのお考えをしっかりと受け止めさせていただきます。この少子化が進むこの状況の中で、また、高齢化・過疎化も進んでおります。これだという正解はないんですけれども、そのような中においても、最適解を探していく、追求していくという取組を、皆さんとしっかりと行ってまいりたいと思っておりますので、本日の協議をお願い申し上げます。冒頭のあいさつとさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

○職務代理者

ありがとうございました。

3 協議事項

○職務代理者

それでは、早速議事の進行に移りたいと思います。

3 協議事項、(1) 望ましい教育環境についてです。

初めに、望ましい教育環境について、教育長さん、説明をお願いいたします。

○教育長

お願いします。

令和5年度、昨年度の総合教育会議、11月に開催されたものです。11月に開催された総合教育会議で、市長さんが、再編について待たなしの状況であると、このような言葉を発せられました。待たなしということを受け止めて、それ以後、教育委員会として、定例教育委員会等での学校再編について、話をしてまいりました。そのとき、3つのことを重視していこうということで、考えました。

1つは、まず子供にとって望ましい教育環境、これはどうあるべきか、ということです。

2つ目は、もうこれからの少子化、それも急速化した状態の少子化、その状況を市民にできるだけ早期に丁寧に情報公開する、ということです。

3つ目は、今までは平成21年度に策定された小学校の再配置指針、それに基づいて、平成の20年代半ばに統合が行われましたけれども、ここからは、もう中学校にも反映されるということで、中学校に関する情報も提示すべきということで、考えております。

実は、令和5年11月の総合教育会議で、市長は、中学校区についてはそのまま残していくというところでおっしゃられましたけれども、これから10年、あるいは12年後というのを考えたときに、それではなかなか子供にとって望ましい教育環境が作れないということで、今日提案させていただきます。

まず、こちらの「望ましい教育環境」、お手元の資料であります。「望ましい教育環境について」、事前に皆様には資料としてお配りしましたので、もう既にお読みいただいたところかと思えます。その中で強調したいところだけ読ませていただきますので、ごらんください。

2ページ目、3ページ目になります。2ページ目ですね。

「望ましい教育環境」と枠組みがしてあって、小学校、中学校、そのページをお開きください。その数行を上から読ませていただきます。

新城市教育委員会は、「望ましい教育環境」を次のように考えている。なお、ここに記す「望ましい教育環境」とは、子どもの数や学級数による学年・学校の規模を中心に考えたものである。教育環境という言葉は、一般的には自然環境や校舎・教室等の物的環境、教師という人的環境、通学時間や通学距離等の全てを含むが、ここでは、今後少子化が急速に進む中で、子どもの数や学校の規模に特化して考え、「望ましい教育環境」として提案するものである。

「望ましい教育環境」

小学校。子どもが、社会性を育み、多様性に触れ、互いに切磋琢磨できることが、子どもにとって望ましい教育環境であるとする。学校では子どもが学級で生活する時間が多いことから、1学級に10名程度以上の子どもがいることを、望ましい教育環境とする。

中学校。小規模小学校が多い本市では、中学校でより多くの仲間と出会うことで、高校進学後や社会人となってからの生活にも円滑につながられるようにしたい。子どもが、生涯において新しい環境に適応し、それぞれの環境で新たな人間関係を構築できるよう、中学校では1学年が複数学級で構成されることを望ましい教育環境として考える。

まず「望ましい教育環境」について、そのように記させていただきましたので、ご理解をいただきたいと思います。

本日の協議は、この部分を中心になると思います。これが一般市民に提供されたときに、やはり教育委員会としてこういう考えでいいんだ、というふうなことを言い続けられないと、そこがぶれてしまうと、問題がより複雑になってくる可能性があると思いますので、ここをよくよく検討していただきたいと思います。

では、2つ目の子供の数の変化ということで、用意した資料の後ろ3枚が、グラフ化された分かりやすい資料となっております。

前回の定例協議で〇〇委員が「見やすいものを」ということをおっしゃったと思います。そのとおりで、これ見やすいものになっているかと思います。後ろの2枚をごらんください。「小学校」と書いてあるものです。

これは、一番上に千郷小学校が載っていません。つまり千郷小学校は、現在の児童数の8割ぐらいにとどまるんですね。令和12年度、6年後に8割ぐらいにとどまるので、グラフでいうと上になってしまうので、ほかの学校の状況が分かりにくいということで、他の12校について載せてあります。

ごらんのとおり、右肩下がりで、それも急激な角度になっているところが多いと思います。特筆すべきことは、上の5校以外、人数でいうと、令和6年、93名全校児童がいる東陽小学校をはじめとして、位置としては下側に位置づけられている小学校、7校の児童数が、令和12年度には、50人を大きく下回るということです。作手小学校が41名、それ以外の鳳来地区にある4校、そして舟着、庭野ですね。そういった学校については、30名を下回るということです。

現時点で、鳳来東小学校と庭野についてはもう既に下回っておりますので、減少率としてはこのようになっております。ご確認ください。

そして1枚めくっていただいて、中学校です。中学校については、先ほどの基本的な考え、「望ましい教育環境」ということでつづったものとして、1学年に複数学級が存在する。そんなことを書きましたけれども、令和18年度、小学校よりもさらに6年延びた生徒数というのは、もうほぼ確定しています。私の今までの経験から言うと、この数を超えることはありません。

社会減はこれからも継続してありますので、今生まれた子たちが中学生になるとき、12年後ですよ。その間には、今の状況が続けば、また減少が起こりますので、恐らくこの9割とか、そういう数になるのが、今の想定される数としては適切な数と考えています。

一番多い千郷中学校でも161名です。学年平均50ちょっとというところです。

ほかの5校については、もう1学年1学級を編成できなくなります。それをまとめたのがこちらです。

左側小学校、令和12年度の全校児童数が50名を下回る学校ということで、少し文字が小さくて申し訳ありません。鳳来東小学校、庭野小学校、舟着小学校、鳳来寺小学校、黄柳川小学校、東陽小学校、作手小学校となっております。

下には、著しく減少する学校ということで、分母を令和6年度の児童数、分子を令和12年度の児童数としたときに、東陽小学校0.28、舟着小学校0.29を皮切りに、0.6以下の学校を9校挙げさせてもらいました。

右側が中学校です。令和12年度、小学校と同じように考え、令和12年度に1学年1学級の学年があるかということで、八名中学校は2学年、鳳来中学校は1学年、作手中学校は3学年とも、今もそうですけれども、このような状況になります。

そして、令和18年度に1学年1学級の学年がある学校、千郷中学校以外5校全てが、1学年1学級になっていきます。これは、今新城の市で考えている35人学級で行ったものです。もし40人であれば、東郷中学校、あるいは新城中学校の3年生も含めて、全部1学年1学級になります。

最後に、生徒が著しく減少する学校、これも令和18年度を分子にした場合は、もう全て0.6以下ということで、この数字は衝撃的な数字であり、今までの私たちの感覚では、なかなか私たち、大人の感覚では、あの学校は安全規模だろうという感じだと思うんですけども、それとは全く乖離した状況になるということも、ご理解いただくように示す必要があると思います。

先ほど申し上げた3つ目のことで、中学校の統合については、1学年複数学級が存在するというのを「望ましい教育環境」として提示しましたけれども、これについては、いろいろなお考えがあると思います。ただ、小規模校が多い本市では、やはり、高校以降のことを考えると、1学年に複数学級あったほうがいいのかということに基づいています。学級編制があるということです。

ちなみに、これはもう私が幼少の頃ですので、もう50年以上前の話です。旧鳳来町、昭和43年から47年にかけて、当時も全く同じ状況でした。当時、旧鳳来町に6中学校がありました。その6中学校が、43年から47年にかけて、鳳来中学校に統合されました。

統合した当時は、鳳来中学校、1,000人を超えましたけれども、その中学校再編を、もうそろそろ考えていかなければいけない時が迫っているということで、以上、基調提案とさせていただきます。

○職務代理者

ありがとうございました。

ただいまの教育長からの説明につきまして、委員の皆様から何か質問がありましたら、初め質問をお願いをしたいと思います。いかがでしょうか。

特に質問はないようですので、皆様からご意見をお伺いをしたいと思います。

お願いいたします。

○教育委員

よろしいでしょうか。失礼します。

まず「望ましい教育環境」についての基本的な考えということで、新たな提案をしていただいたと思います。そのことについて、述べさせていただきます。

まず一番初めに、この小学校・中学校と分かれて書かれているところですけど、先ほど新たなところを付け加えとして、教育長先生が読まれたところ、教育環境というものはこのようなものだといって、物的環境、人的環境、それから通学時間とか距離とかっていうのも含まれるけれど、その中で特化して、今回は子供の数や学校の規模のことについて、望ましい教育環境とはどういうものかっていうものを書かれたというふうに書かれています。

その前に私が思ったのは、この小学校・中学校と書かれた大前提の基本的な考えということというのは、ほぼほぼこの子供の数や、学校の規模に特化したことが書かれているのではないかと考えていたわけです。そのことが、望ましい教育環境において一番大切なことだから、だからこのことを考えるということが、一番基本的な考えなんだというふうに思えたんですけど、わざわざここに一般的な教育環境とは、物的なもの、人的なものって書かれたってことは、それだって望ましい教育環境の中に入れなきゃ本当はいけなかったのではないかと感じてしまうわけで、ここに特化して書かれたということになれば、特化していないところという大前提の前段のところ、その文言が入っていないというのは、読んでいて、ちょっとなぜ今ここでっていうふうに感じてしまったので、その辺のところはどういうお考えで、こうなったのか。

もう私の中では、一番大切な望ましい教育環境を考えるに当たっては、人的、人的というか、学校の数や、学校の規模に特化したというところは大切だったな、この小学校、中学校と書かれた考え方で、こういうものを踏まえた上で、望ましい環境とはこのようなものだ、きっちりと人数を入れ、こういう学校であるのが、この新都市においては望ましいであろうと書かれているというふうに捉えましたが、その辺のところはどのようなお考えだったか、教えていただけるとありがたいです。お願いします。

○教育長

よろしいですか。

○職務代理者

はい。いいです。

○教育長

今ご指摘のとおりです。「望ましい教育環境」って、これ書きながら今まで考えてきたことなんですけれども、今言われたとおり、人数に特化するということで、最後に謳ってあるんですけども、例えば自然環境のこと、例えば通学のことを言い出すと、結局焦点化されない面が出てきてしまうんですね。で、これから様々な方に資料として提供していくときに、やはり核心を突いたところを提示すべきだと思っております。

文章が長ければ長くなるほど読みません。計画が何十ページもある。作ることは必要ですよ。多くの市町で適正化方針も出されてますし、作る必要がありますけれども、本当に一番大事なところを、どういうふうに考えているかということで、このように書かせてもらったとご理解いただきたいと思います。

で、ほかの望ましい教育環境ということで、子供の数以外にも、それを軽視することとは全く意を別にするものですので、そこはご理解いただければと思います。

○教育委員

すいません。軽視しているとは思いませんし、初めにそのように捉えて、私たちはこの人数とかというものが、特化した上での望ましい教育環境の考え方と、本当に書かれているのだろうと思いましたので、わざわざここにもう一度「一般的には」と書かれたことが、それだってあるのに、忘れていないよっていうふうに捉えればいいのか、それともそっちもあるのに、ここでもう一度、ここで望ましいって言って、人数のことを特化するということになると、前のところに書いていないのについていうふうに思われてしまうのではないかと考えたのですけれども、これが一番大切だということがきっち

り押さえられた上でのところで、特化したってことになれば、大変分かりやすいと思いますので、私はこの書き方で大丈夫、大丈夫というのか、望ましいものと思います。

○教育長

今お話ししながら思ったことがあります。例えば、新城市には子供が全校で10人前後の、本当に小さな学校があります。その保護者の中には、子供がたくさんいることが必ずしもいいとは限らないと。子供が少ないことによって、これだけメリットがある、そういうふうにお考えの保護者も、少なからずいらっしゃる。

この基本的な考えの最初にも書いたんだけど、現状は、新城市は10名程度から500名を超える学校まで、規模が様々ある。でも、その規模が全てではなくて、小さな規模の学校をよしとする保護者もいらっしゃるし、そうではなくて、やっぱりある程度の人数が必要だと、そういうふうにお考えになる保護者もいらっしゃる。それが、どちらかという、市街地に近づけば近づくほど後者の考えが大きくなると思っています。

ですので、なかなか難しい問題ですが、これで仮に教育委員会外部に提示していくということになれば、そこはもう少し考えに考えを重ねて、表現すべきであると考えます。

○職務代理者

ありがとうございます。

○教育委員

いいですか。

○職務代理者

はい、お願いします。

○教育委員

現在、鳳来東小学校は全校生徒で9名の複式学級を持つ小学校とであり、令和12年度には全校生徒5名に減少します。

庭野小学校は全校生徒20名の複式学級を持つ小学校であり、令和12年度、全校生徒13名に減少します。

これらの小規模校の教育も素晴らしいと思います。しかしながら、小学校の小規模校が統合することで、価値観の違う同世代の仲間と学校生活を送るという経験、それによって子供自身がたくましく育っていくであろう、生きる力をもっと育むであろうことが期待できるのであれば、私は、「近い将来改めて小学校の統合・再編成は必要である」という教育委員会の基本的な考え方に賛成します。ただ、庭野小学校と鳳来寺小学校では、この2つの小学校を取り巻く教育環境は大きく違います。八名学区の子たちは、最初幼い頃はこども園に行き、それで小学校に入学すると、庭野小学校と八名小学校に分かれて、さらに中学校に行くときには、同じや八名中学校に通います。

一方、子どもが吹くアルプホルンで有名な鳳来東は、将来JR飯田線沿いの東陽小学校に統合することが考えられるんだけど、数年後には東陽小学校も児童数が激減する可能性があります。

そのように教育環境はそれぞれ違います。そのことを考慮に入れ、子ども達にとって一番ベストな「教育環境は何か」を考えることが大切であると思います。

○職務代理者

ありがとうございました。

関連でご意見ありましたら、お願いしたいと思いますが。

はい。最初に議論になりました、教育環境の捉え方について、最も基本的な考えとして優先しているのが、子供の数であるというところにはご異論がないということでありまして、それ以外の教育環境についても、地域に下ろして会議を進めていただく中では、必ず出てくる根拠ですので、それについて触れていただいているというふうなことで、補足説明いただいたと思います。

この基本的な考え方について、さらにご意見がありましたら、お願いしたいと思いますが。

皆さんにご意見を伺いたいと思いますので、青山さんいかがでしょうか。

○教育委員

はい。一通り読ませていただきまして、非常に引っかかりもなく、非常に分かりやすくていいというのが、率直な考えです。

前回の会議のときに、教育長が結果に至るまでの過程が非常に大切なんだって言われたことが非常に心に残りまして、私の中でちょっと反省がありました。何かと言いますと、やはり今回グラフ化していただいたり、そういうのを見るにつけ、もう今の現実からしても分かりきってるじゃないけど、こうしないといけないんじゃないかって、統廃合しないといけないということは分かりきってるじゃないか。とにかくすぐやらなきゃいけないじゃないか。それがちょっと私の中では、走った部分がありました。

それは現実ではあると思うんですけども、やはり、そこに至るまでいろいろ意見を交わすっていうのが、実はすごく大切なことで、逆にこれが都会のマンモス校であったら、こういった話合いの場を持つこと自体がないわけなんですね。ですから今、新城市が直面している問題なんですけれども、一つ一つ意見を大切にしていって、これからも望ましい教育環境に今後していきたいと、いけたらいいかと、改めて思いました。

○職務代理者

ありがとうございました。

続いて、〇〇委員さん。

○教育委員

意見というよりは現状というか、今の子供たち、特に高校生になった子供たちの実情をちょっとお話をさせていただきたいんですが、今日も総合教育会議に合わせて、少し周りの意見を聞いてきました。

私、豊橋の高校で、今年度PTA会長を5年やっているものですから、いろんな高校さんともつながりがあって、コロナ禍も含めて子供たちがどういう雰囲気、新城から豊川・豊橋に通学してる生徒が多い、結構いるものですから、どんな雰囲気だったか聞いてみたんですよ。

すると、千郷中学校のような学級が複数あるところから出た子供たちは、もう何もなくて、公立、私立関係なく、普通に勉強を受けられているんですけど、鳳来とか作手ですとか、東郷、八名あたりから行った、東郷はもう先日1クラスのところを、人数が多いと、2クラスにしてもらった子供たちが今、高校2年生になってるんですけど、聞いてみると、まず最初怖いってみんな思った。で、しばらくやっぱりなじむのに時間がどうしてもかかってしまう。

豊橋・豊川の高校に出ていくと、やっぱり地元から来てる子たちが多いものですから、もうそこで一つの輪ができて、豊川コミュニティ、豊橋コミュニティができていて、そこに新城のほうから入っていくっていうのに、大分時間がかかった。

で、時習館高校に通ってる子が言ってたんですけど、夏休みが明けるまで、高校1年生の夏休みが明けるまで、友達が1人も、部活に入ったにもかかわらずできなかったというのは、やっぱり男の子なんですけど、コミュニティができていて、入っていくのも行けず、話も豊橋・豊川って形で固まってしまって、「君、新城から来たんでしょ」みたいな感じで、なかなかなじむすべも自分は分からないし、どう接していいのか分からないから、友達も全然できなかったっていう話を、結構いろんな子供たちから聞くし、親御さんからも、やっぱり新城の少ない人数の中で中学生生活過ごした子が、豊橋・豊川の学校に行くと、たくさんの方の同級生と触れ合ったときに、どうしていいか分からず戸惑っているというのを、すごく意見としてたくさん聞くので。

教育委員会としては、一応中学校3年生までが見るところではあると思うんですけど、それより先の、先ほど教育長がちょっと言われてたみたいに、高校に進学して、さっき社会に出ていったときのことを考えると、子供たちの実際の実情としては、やっぱりあまり少人数の中で、特に中学校を過ごしているというのは、好ましくないのかなっていうのは、小規模校は小規模校でいいところもあるんですけど、そういう話をいろんなところからここ数年聞いてみると、やっぱり1学年が複数学級でっていうことは大切なのかなっていうのは、改めてちょっと今回話を聞いて、うちの子もそうだったんですけど、そういう実情なんだなっていうのがよく分かりました。

○職務代理者

ありがとうございました。

続いて、〇〇委員さん。

○教育委員

せっかく高校生活の背景のお話が出たので、そうなんだろうなということを想像しながら話を聞いていたんですけども、確かに恐らく豊川や豊橋だと、もう一つの中学校から10人単位でまた同じ高校に行かれるんで、ともすると同じ部活から同じ高校でってことで、全く生活環境が変わらず、たまたま生活する場所が変わったっていうぐらいしか変わらないって、ほんと実際に言っている親御さんもみえるぐらいで、それも利点だろうなっていうのも想像するんですけど。

他方で、国府高校に進んだ子かな、2人、去年。なんですけど、別に有教館が嫌とか、そういうことではないんですけど、人と違うところへ進みたい。同級生とは違う環境でという高校を選ぶ子も実際はいて、ただそこで、実際、同じ中学からの友達がいないので、きっとよっぽど志を強くして、もうその部活に入りたい、その高校からこういった大学に進みたいとか、ある程度志を本当に強く持っていく子しか、なかなかそういうところで耐えられないんだろうなと思うんですけど、話を聞くと、やっぱり電車通学っていうのが一つあって、どこどこまでは一緒なんですよね、同級生がね。だからそこでテストの範囲を聞いたりとか、学校生活の話の聞かないっていうものですから、その電車の中のコミュニティっていうものがすごく生活を、高校生活をサポートして。何なら高校違うけど、豊川駅で待ち合わせて一緒に帰ってくる子もいるなんていうもんですから、人数が少ない中学生生活なるべく多くの子に囲まれた環境で免疫をつけておいて、ここに進むっていうのも一つのやり方かなとも思うんですけど、思うんですけど、私はどちらかという、自分の子も想像するんですけども

行った環境で順応しなさいっていうふうに思うので、1人で頑張るっていう環境はなかなか、慣れていけないといけないので大変ですけど、新城からそういう志を持っていくってことであれば、その高校生活のために、そこまで意見されてはないと思うんですけど、高校生活のための中学校生活づくりっていうのまでは、そこまではいいのかなっていうのは実際、今話を聞いてて思いましたというのが一点。

もう一つ、ちょっと話が戻ってしまうかもしれないんですが、先ほど今度教育長がまとめられた、この最後の段落の「これまで述べてきたことを踏まえ」という段落は、前回定例会でなかった段落で、実は私、これが事前資料として配付されたときに、この一段落がすごく、今までの読んできた内容の確認になったっていうことで、むしろ私は、特化というものが、ここだけにハイライトされてしまうよりっていうネガティブな印象よりは、やっぱりそこだったんだなという確認の一段落になったので、私はどちらかというと、〇〇委員がこの段落必要ないんじゃないかっていうことまでは言ってみえないと思うんですけど、逆にこの段落は、気持ちとしては、太字ぐらいでもいいぐらいの段落じゃないかなって思ったのが感想です。

そこで〇〇委員に、例えばここはどういうふう処理されるのが、〇〇委員の意見を反映する理想の形なのかなとお伺いして、これっていろんなものがたたき台になってくるので、私ももやもやな気持ちで、実はそういうふう思われてるんだらうなっていうことを思いながら、次の意見を述べる、述べにくいというのはあるんですね。この段落の捉え方をどういうふうにされてて、このところはしっかり議論される余地があるんじゃないかなとは思っています。

○職務代理者

はい、ありがとうございます。お願いします。

そういうことでよろしいですか。

○教育委員

はい。私はこれを排除するという、やっぱりそれではないんです。排除するってもし言うのであれば、同じことが2度やっぱり書かれているじゃないですか。子供の数や学級数による、学年・学校の規模を中心に考えたものであると念押しをしておいて、最後に子供の数や学校の規模に特化して考え、これを提案するものですよということなので、同じことが書かれているだろうけど、念押しという確認のためなら、これは必要であるというふうに考えるけれど、なぜこれに言及したかということ、その前段の小学校、中学校というところに、これは学校の規模や、それから子供の数に特化したことしか書かれていないのかかわらず、ここにきて、一般的にはこういうものも教育環境ですよ、なんて言われたなら、じゃあ一般的なものっていうものが前段に書かれていないのはなぜかなって思うわけでして、そこに書かれていたっていいわけじゃないですか。その中で、特化したものがこれだということが確認できたんだから、と思うんですけど、でも教育長先生はそうするといろんなことをいっぱいだったら書くことになるので、それからいろんな協議会から出てきた答申みたいなものに書かれてる市町もありますよってことで、確かにそういうのはたくさん読んだことありますけれど、でもそれらではなく、ここには一番大事なところである子供の数や学校の規模に特化したことが書かれていて、さらにこれが新城市の教育環境ですよって言って、四角の中にあるので、これは特に削除するべきものでも、異論を唱えているわけでもないの、こういう書き方でいいのだと思います。その踏まえるところがちゃんとしてあるからということですよ。

で、一番初めに、これが書かれていないときには、私は今そのとおりに、これは人数のことに特化して考えた、望ましい教育環境であるから、前の再配置におけるっていうのは、もう平成21年のときには、清流と緑の生物や知識を、本当に自然環境のことから書かれているようなものが書かれた再配置指針でしたので、そういうようなものを除いたものということで、それらはすばらしいけれど、ここの考え方というのは、子供の数や学校の規模のことだけに特化しているんだよってということで、押さえてあるというところを確認できたので、私は異論ありません。ということですけども、いかがでしょうか。

○教育委員

いいですか。

○職務代理者

お願いいたします。

○教育委員

本当に特化すること自体がいいことなのかっていうことは、ちょっとは疑問があります。

一番最初、私が話したのは、それぞれの地区では、環境はそれぞれ違う。環境が違うけども、教育委員会としては子どもの数や学校の規模に特化するっていう考えですよ。

○教育委員

小学校のところの段に、小規模校のよさっていうことで、この現状が書かれていて、よさもある。で、大きな学校のほうでは、こんなよさがある。しかし、このような小規模校が、あまりにも少なくなる場合は、こういう現状があることは、考えるときが来ているんですよっていうことを踏まえて書いてあるのだから、だからそのよさっていうものをそれぞれ認めた上で、でも、この望ましい教育環境っていう、新城市におけるものでは、まだ全てのところがそこに到達していないのだから、そうするように考えていきたいと思いますと書かれているのだから、それは受け入れられる言葉や理解の範疇ではないかと思うんです。

そうすると、市民の人たち、地域の人たちにも、今この現状があります。でも、このほうがよりこんなところができないような現状に、これからはなってしまうのだから、考えてみましょうっていうことが言えるわけで。そのときに市民の人たち、地域の人たちは、どちらがいいかっていうものがはっきりと見えるのではないかなって思う文章だと思いますし、望ましい教育環境が提示されているのではないかと思います。

ですので、私はこういう書き方で、新城市ではこれが望ましい教育環境ですよという、ここに書かれることは大変分かりやすく、納得に向かえるのではないかと思います。

○教育委員

いいですかね。

○職務代理者

どうぞ。

○教育委員

違う面から言っていていいですか。

鳳来東小学校が、今、喫緊に話し合わなければならないっていうことです。そして、先ほどお話しした東陽小学校も、将来人数が減ります。鳳来寺小学校、黄柳川小学校、東陽小学校も1学級10名

に満たない小規模校になります。そうやって考えたときに、鳳来東小学校1校にとどまらなくて、もうちょっと視野を広げて、鳳来地区全体、全ての小学校の関わり合いの中で、保護者、地域の方々、皆さんで協議する必要があるんじゃないかなと思います。

○職務代理者

ありがとうございます。

司会の立場ですけれども、今、教育委員さんがおっしゃったように、いろんなところで話をする中で、その環境、教育環境と書いてありますけれども、実は子育て環境が含まれていると思うんですけれども、そういうよさも多分議論が上がってくるのではないかと思います。

私は田舎に住んでいますけれども、子育て環境としてはとてもいいですねと、よその方には言われます。カエルや虫やいろんなものが周囲にいて、幼児にとっては、本当にそういう発見の連続であって、子育ての環境としては決して悪くない。

それから、運動能力が高くなってきて、走ったり自転車に乗ったりするときにも、交通量がありませんので、もう好きなように遊べるといういい点があるんですね。

ですけれども、子供が保育園に進み、小学校に進み、学級とかクラスの在り方を考えたとき、5人しかいなかった。5人の中に男の子と女の子がいて、男の子は3人だけ女の子は2人しかいない。女の子はその子としか付き合えない。それが、やっぱりハンディと言っては言い過ぎなんですけれども、やっぱり10人ぐらいいるとよかったのにねっていう話が出てくるわけですね。

だから、確かに子育ての環境としてはいい環境が考えられますけれども、いざ子供が教育を受けるとか、心を成長させるというふうな段階になってくると、ある程度の人数がないと、やはり妨げになることがあるなということは思っています。

そんなことをちょっと痛感させて、話していただいて。

○職務代理者

はい。

○教育委員

前々から何回も話はするんですけど、例えば海老地区、連谷地区、協和地区、学校がなくなりました。そういう地域って今活性化しているのかっていうと、何か活性化してないというか、静かになっているというか、そういう感じがするんです。改めて学校というのは、コミュニティの場だし、地域の文化とか伝統を共に学んでいった場であるというのを、改めて思います。

新城市が消滅都市自治体と言われて数年たちますが、子供の減少によって、小学校・中学校がなくなることによって、活気のない地域・地区が増えるんじゃないかというのが、すごい心配なんです。

つまり、新城地区、鳳来地区、作手地区の教育環境はそれぞれ違いますが、小規模校がなくなっていることによって、消滅都市がどんどん近づいているっていう。こんな現状があるとすれば、これは非常に危惧することだなと、自分は思っているところです。

○職務代理者

ありがとうございました。

お願いいたします。

○教育長

今の点に関わって、小規模校がなくなって、それだから地域の活力がさらに衰えてしまうと、その考え方、そこに私たち教育委員会は重視しないということで、子供の、子供の集まり、そこを第一に考えるべきということで、今まで検討してきたのではないかとというのが一点です。必ずしも小規模校を残す、それが地域の活性化にはつながらないとも思います。つまり、今の保護者が、規模が小さくなれば離れていく。そういう道を選択する保護者も少なからずいるということなんです。だから一概に学校をなくすから、地域が、地域の火が消える。そういうことにはならないと考えます。

○職務代理者

はい、お願いします。

○教育委員

私も今、教育長が一点目に言われた点で賛成するんですけども、やっぱり私たちが考えるのは、地域の中に子供は生活してますけど、考えるのは子供が育つ環境、教育環境という点かなと思うと、そこが考える点ですよね。と思うと、例えば小学校がなくなった後のことというよりは、子供がじゃあ違う学校に移動したときにどんな生活をするのかとか、どんな人数であれば、教育環境はこう変わるとか、そちらのほうを考えるのが役目かなと思うのと、確かに私も黄柳川の施設等に行って、音楽活動とかで回らせてもらおうと、本当にこの先に何があるのかっていうぐらいの道で、本当に何もなくなってしまって、本当に何人の方がこの辺に住んでるのかなって、不安に思ったりするぐらい静かになっちゃったななんて思うところも、確かに鳳来にあるので、小学校がなくなったこれも影響なのかなって思うこともあるんですけど、でもやっぱり今私が想像するのは、子供たちの顔で、先ほど委員言われましたように、やっぱり小規模校のよさっていうものがもう実現できないほどの小規模ですよ。小規模って、例えば9人っていったらあるところで小規模っていったら、もうそれはもう小規模というよりも極小で、小規模っていうのもあくまでも20人、友達が、係が成り立つとか、委員会が成り立つとか、そういった学校生活として基本的なものができての小規模っていうのは分かるんですけど、200人、300人になって。やっぱりもう本当に一桁で生活をするというのは、ほんとに小規模校のよさって、今まで皆さんさんざん、私も含めてハイライトしてきましたけれども、もういよいよそういうことも語られないほどの人数になってきているということを考えると、やっぱりそれを残すことの問題点のほうが大きくなってきているんじゃないかなと。

その一つによく聞くのは、大人、本当に変な話、お父さん、お母さん、子供で、大人の数が多いで、大人に、子供は大人に話を聞いてもらえますよね。それは家庭内で当然だと思うんですけど、子ども同士で話したときに、なかなかそうはいかずで、大人だったら聞いてもらえるんです。ずっと話しても。ただ子供同士はそうはいかない。

で、子供同士になったときに、ちゃんと相手の話を聞くとか、まとまってみんなで先生の話の聞くとか、そういう体験が一切なく中学校に行ってしまうんですよ。で、行ったときに話ができない、やっぱり1人になってしまう。

言え、今の言い方で言うと個性なのかもしれないんですけど、やっぱり生活は成り立たないということを、本当に小規模校っていう「小」のサイズは、本当に今言ってる、温かい感じの小規模校っていう雰囲気のままに語っていいのかなっていうところは、すごく感じます。

○教育長

よろしいでしょうか。

○職務代理者

はい、お願いいたします。

○教育長

先ほど教育委員が言われたことに関連して、まず高校でのコミュニティ、それに対して意見を聞いたことがあって、実は私は千郷中学校、東郷中学校、昔の話ですので、いずれも学年4クラスあるいは3クラスはありました。複数学級ということで、文科省が定める適正規模の学校。そこに勤めていて、小規模のことがよく分かってなかった部分がありました。

小規模校に勤務経験が長い先生何人かに聞いたところ、そこが結構問題なんだと言っていました。

小中で、自分のことを周りの子供がみんな理解してくれる。だから困った経験がない。対立経験もない。9年間過ごして、園から含めれば十何年過ごして、高校に行く。高校で、自分の考えを否定される。そこで、中学校まで順調に見えた、育っているように見えた子供が、高校生活に適応できなくなる。そういうことを複数の教師から聞きました。

そうだとするならば、やはりこれはもう中学校まで含めた教育環境、何が望ましいかということ、徹底的に考えていく必要があるということをおもいました。

あと、先ほど教育委員が言われた鳳来東の問題、それでは済まされなくて、鳳来地区の問題。平成20年代の合併のときにも、鳳来寺、連谷、海老、3校協議で、それが鳳来西が入って4校協議、こういうことを経て検討されてきた。そういうことから考えると、もう鳳来地区は、4校協議、鳳来中部地区も含めた5校協議の段階に、近々なっていく。我々は教育行政を預かる身として、そのような場をセッティングしていく必要がある。そういうことを思ってます。以上です。

○教育委員

いいですか。

○職務代理者

すいません、お願いいたします。

○教育委員

教育委員会として、小規模校は駄目だよ。あるいは、中学校で言うと1学級は駄目だから、2学級がいいよっていう方針を出す、というのがいいかどうかは、僕はちょっと分からない。

でも学校があることによって、地域がやっぱり潤ってくるなという実感はあるのです。

例えば、作手中学校を考えてみましょう。作手中学校は今36名。それが令和12年には35名。令和18年には18名と減っていく。確かに減っていくんですね。1学級しかありません。でもこの作手中学校を考えたときには、自分は、2つの方法があると思うのです。

一つは、今、作手中学校の校舎、かなり老朽化しています。だから、数年後、校舎とか体育館が新しく、バリアフリーのある作手小学校に移転し、作手こども園、作手小学校、作手中学校の一貫教育を目指す、作手学園都市をつくるという方法。

もう一つは、作手中学校は生徒が少ないので、現在シスターズスクール制をやっているように、千郷中学校の子と合同練習しながら、同世代の人たちと汗を流す、共に学ぶ、切磋琢磨するような統合に

走るのか。その2つの方法を、地域で保護者が、子供にとって一番いい方法は何かって考えることが、今一番大事じゃないかなと、自分は思うんです。

○教育委員

ここに書かれていることは、駄目だとは言っていないような気がするので、このようになることが望ましいのではないかとという教育環境を提示している。

で、そのことにおいて、地域の方や保護者の方が考えていただければいいということで、これを否定しているものではなく、このように考えるっていうふうにして、ある程度の目安というものは必要ではないか。それを出すのが、設置者である教育委員会、新城市ではないかなと思うので、このような目安の学校が望ましいと、新城市の教育委員会は考えます。それに対してどうですかっていうことなので、望ましいと言われる、提示することが、もう駄目だと言っていることだと考えなくてもいいのではないかと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○教育委員

もうそのとおりです。

○教育委員

ですよね。なので、提示することっていうのは、どういうものが望ましいんだっていう地域の人たちにとっては、学校は、じゃあ、どういうものがいいんだって言ったときに、今あるような、こういう現状があって、こういう現状だと、こんな学びがなくなってしまう。そうしたら子供たちにとっては、やっぱり損になってしまったり、これからの学びのことを考えると、ちょっとこれはということになるっていうことを提示するっていうことは必要ではないか。それによって考えればいいわけで。

で、先ほどここに教育長先生が出されたこの人数というのも、こういうことも必ず市民の方たち、保護者の方たちには提示したほうがいいと思うんです。早くのうちに分かっているんだから、早くにこういう状況になっていきます。そこでこのように考えていますけど、これはこうしなさいっていうことではないんだっていう大前提の下、こういう現状がありますっていうことは、ぜひ知らせなければいけないし、知ってもらわなければいけないっていうところは押さえなきゃいけないかなって思いますね。

○教育委員

同感です。ただ、1学級10名程度以上という基準がいいのかどうか、僕は分かりません。

それから、中学校で1学年が複数学級構成にするという目安が適切であるのかどうか分かりません。それを土台にして、保護者の方、地域の方が本当に膝を突き合わせて、考えるきっかけとしてほしい。そういう考えだと今、捉えています。

○教育委員

そうですね。それは思いますね。

○教育委員

文章の書き方、あるいはどういうふうに広報するか分かりませんが、そこのところを十分注意して、情宣していかなければいけないんじゃないかなと自分は思います。

○教育長

よろしいでしょうか。

○職務代理者

お願いいたします。

○教育長

本当に数多くの自治体が直面している問題です。

その中で、例えば市長も待ったなしの状況であるといったときに、教育委員会として、では新城市は6中学校を2つにします。13小学校を7つにします。こういう計画で進めますという自治体もあります。岐阜県山県市のように、今の小学校、中学校全て残します。そういう自治体もあります。

新城市が選ぼうとしている方法は、今話されてきたように、この望ましい教育環境をきっかけとして、住民の方に話し合っていていただく。保護者も十分に含めた上で、話し合っていていただくという方法を探ろうとしてるんですね。

今日の協議と同じ環境と、もう一つこれからの進め方というところにかかるんですが、それでいいのか。逆を求める場合もありますよね。教育委員会、教育行政を預かってれば、もっと具体的に示してほしいと。つまり、もう小規模校を排除してほしいと、そういうふうに求める方もいらっしゃるかもしれません。

ですので、そのあたりを皆さんどう思われるかという、市長も含めてお聞きできればありがたいと思います。

○職務代理者

ありがとうございました。

望ましい教育環境の小学校の1学級10名程度以上というふうに記載していただいたんですが、これは新城だから出てくる数字であって、一般論的には10なんていうのは、本当はすごく少ないですよ。ですから、新城の現状を踏まえながら、中でもこれぐらいは何とかという形で挙げられていて、中学校はもう少し進んでいると思うんですけど、複数学級ですので。そんなことでいいと思うんですけども、このあたりもやはり皆さんからご意見を伺って、どういう数字で押さえていったらいいか。そのあたりもご意見が伺えたらと思うんですが、いかがでしょうか。

○教育長

ちなみに、平成28年ですが、一般的には、適正規模は12学級以上18学級以下、つまり小学校6学年ありますので、学年2学級、あるいは3学級。これが適正規模。新城というと千郷小学校ということですね。

中学校でも学級編制があるということが、求められていますので、中学校でも同じようになっていると思います。

○職務代理者

いかがでしょうか。

○教育委員

それではよろしいでしょうか。

大前提に子供たちのためについて言って考えるっていうものがあるわけで、地域の活性化っていうのはとても大切なことだけれど、子供たちのためについていうことがあるってことは、押さえなきゃいけないってなると、この考え方、基本的な考えで、それにおいて望ましい教育環境が、新城市ではこうだというふうに挙げて、それに対して、じゃあ次にはどうするかという考え方で、地域に投げかけて

いくという段階を取っていいのではないかと思います。教育委員会がこれが望ましいんだからこうしなさいって出すというところではないのではないかと思います。

先ほどの、中学校でも2クラス以上が必要だという、必要だという圏域のお母さん方の聞こえてくる声というのはとても大切な意見だと思いますので、そういうことを考えると、中学って何とか先ほど教育長先生が言われたように、新城市全体で考えなければいけないことで、そのような新城中学校として、新城市の中学校として、一つというものを考えていくような提案で、提示というかな。提案ではなく提示っていうものを全市に流すということだって必要なことではないかというふうに思いますので、まずは情報発信をしていくっていうところから始めていけばいいのかなというふうに思います。

○職務代理者

お願いします。

○教育委員

すいません。本当に個人的な意見なんです。これ本当に個人的な意見。私はもう以前の八名小学校の件のお話が、八名小学校っていうのができたときから、実はずっともやもやしていて、今回もその小学校の統廃合を、地域に持って行って話合いをしてっていうところが、先ほどの教育長先生の一言で、全て取っかかりが分かったんですけど、地域性として、どうしても高齢者の方が多いじゃないですか、新城という町って。そこで保護者の方に話を投げかけ、地域の人に話を投げかけ、話合いをしましょう。じゃあ統廃合どうしましょうってなったときに、今までの私の新城にずっと、千郷と東郷に住んでいる経験上でいくと、本当にこれ個人的な話なんですけど、らちが明かないことになるんじゃないかと。2年3年で決まるわけがないじゃないかっていうのが、多分ずっと引っかかっていたと思うんです。

さっき先生が、自治体によっては、もう教育委員会のほうから「こうしなさい」っていったものを投げかけて、もうそうしちゃうっていう自治体もあるっていうお話を聞いたときに、それだって思ったんですよ。

なので、すごく個人的な意見を言うと、やっぱり保護者の皆さんと、地元の皆さんと教育委員会と市と、平和的に話し合っ、「じゃあもうしょうがないね。こうしましょう」ってなるんですけど、多分この新城っていう地域的にそれをやっていたら、じゃあ何年後の数字になったときに、何とかなっているとは到底思えないです。今の状況だと。

なので、ある程度、強制的にじゃないですけども、「こうこうこうだからこうです」っていうのを、枠組みを決めて進めていかないと、多分平和解決しようと思うと、膨大な時間がかかるような気がしていたのが、ずっと私の中で引っかかっていたところです。

すごく個人的な意見を言うと「もうこちらでこうしましょう。こういう規定なんです。こういう枠組みなんです。こうしましょう」って決めてしまったほうが、本当に早急に対応しなければならないのであれば、一番平和的で。実際にその中学校の制服が今度変わりますよとか、この前もちょっと、こども園も何園かがなくなって、統廃合しますってなったときに、じゃ保護者の皆さんって言ったら、「ああ、そうなるのね」「え、そうなんだ」って言う者も、「でもそういうふうに決まったんだからしょうがないね」っていう感じで従ってる感がすごくあるので、早急に何とかしなきゃいけない。じゃ

あ地域の人たちと保護者と話し合いをしましょうっていうのは、ちょっとのんびり過ぎやしないかっていうのが、ずっとちょっと引っかかっていると、思う一つでした。個人的な意見です。

○教育委員

同じく、これが保護者にとっては、学校は子供が育つ場所、学校で学習する、勉強する場所なんですけど、地域の人にとったら、学校は地域のためにあるということで、学校の目的が確かに違うと思うんです。もう保護者も一定の保護者、ある一定の保護者の方なんかは、恐らく子育てのことしか考えてなくて、地域のことなんて考えてないと思うんですよ。

ただ地域の方は、本当に地域のための学校づくりということで、学校のものに対しての認識が違うということを見ると、確かにどのように同じトピックで、目指す点が何点もあればいいんですけど、目指す点は一点で、いろんな意見を持った方が話してくるときに、どうすると一番フェアに議論ができるのかなというのは、確かにすごく心配になりますし、不安です。

あともう一つ、保護者の方にもすごく違いがあって、すごく学校教育に熱心な方もみえれば、もう学校は次、クラブっていう方もみえますし、学校のことに興味はあるんだけど分からない。もう教室の中で何が起きてるか、19人と9人の1時間、国語の風景がどのように違うかが分からない。という方も保護者の中にもみえるので、学校のことを考えましようと言われたときに、本当にできるだけ教育課が持っている情報を出していただいて、何なら考え方の提示まではどうかなと思うんですけども、ある程度今までのほかの学校がどうおっしゃってた、サンプリングみたいなものも当然出していただく必要もあると思いますし、場合によっては子供が育つ環境というものも、それぞれじゃあ本でどういうふうに見えるか勉強してきてくださいっていうよりも、もう本当に研修、勉強会ぐらいの、学校っていうものへの理解会みたいなものも必要なのかなっていうふうには思います。

本当に今言われてたみたいに、確かにもう鳳来地区も、やがて東陽、やがて黄柳川もなんていう話じゃなくて、本当に今この数字を見ると、もうそろそろ東陽小学校も話入っていかないと、4年たったときに、あれ、この話がどうしてこんな状況になるまで、今まで出なかったんだろうって。いや、あのとき一回はあったんだけどね。え、じゃあどうしてそこから話し合いにならなかったのってことになり得るので、もう本当に〇〇先生が言われたとおり、もう鳳来、実地で話し合わない、これはもう本当に鳳来に関してですけども、うやむやなまま先へ先へ行ったら、気づいたら一つ形が出来上がってた。取り残された保護者さんっていっぱいいる。意見も多数決だったらいいですけど、多数決って聞こえがいいですけど、ほとんどの方が切り捨てられてる。そのマイノリティの意見のほうもちゃんと解決できて進んでいくっていうことを考えると、本当に早く取りかかったほうがいいんじゃないかなと思います。

○職務代理者

お願いします。

○教育委員

ですので、一番は、我々大人側にとっての1年、2年っていうのは、大人になってからの1年、2年なんですけど、子供たちの1年、2年っていうのは、今このときを、小学校・中学校で、こども園で過ごしている子供たちなので、その子供たちのことを本当に思うのであれば、それこそ型枠を作って、早急にやっつけてあげないと、その子供たちはもう中学生になってしまうし、高校生になってしまうので、

のんびり協議をして、のんびりやりましょうという状況ではもうなくなってきているのかなというのは、率直に思います。

○職務代理者
お願いします。

○事務局

よろしいですか。それぞれの委員さんのご意見、本当に尊重いたします。全くそのとおりでと思います。

で、次の議論をしなければいけない。これからの進め方についてっていうのも含めて、ご意見が出てくるのかなという気がいたしましたので、はい。

取りあえずは、今望ましい教育環境に関する基本的な考えというのを、広く委員会として、これを出していこうということで、まずこれできっちり決めまして、次に進んではどうかと思いますが、はい。市長からご意見をお伺いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○職務代理者

はい。ご意見ありがとうございます。

望ましい教育環境の姿について、共通理解をしていこうというご意見です。

市長さんのお考えも聞いていきたいと思います。

○市長

はい。本当にいろんな皆さんのご意見を聞かせていただきまして、本当にもう、ほとんど納得できる皆さんのお話だったように思います。

それで、一つのちょっと自治体の例を挙げるんですけど、能登半島地震で、本当に大きな被災を受けた珠洲市なんですけれども、珠洲市は、新城市の面積の約半分です。結構広いんですね。で、人口は1万2,000人ぐらいですので、新城4万3,000人ですが、大体27%ぐらいの人口です。それで、高齢化率が52%ということですので、新城市が大体市全体で38%ですので、高齢化が著しく進んでいる地域です。

さらに、少子化もやはり加速してまして、昨年だと思えますけれども、出生が50人です。ですので新城市の3分の1ぐらいということなんですけれども、その珠洲市が、今9つの小学校、それから中学校4校を維持しているっていう、これは市長の方針なんです。

で、この9つの小学校のうちの2校は義務教育学校ということなんです。こういう市の状況にありながら、恐らくこの方針は、今のところ変更する、学校を統合していくっていう考え方ではなくて、堅持していくという考え方のように思います。今、珠洲市の市長の話聞く限りでは。

で、今年の11月に、私がやはり中学校はやはり地域性を考えて、統合というのはなかなかないんじゃないかなという認識の下に、そうした発言をしたんです。

で、やはりまず教育委員の皆さんのお考えを尊重したいのは、やはり学びの環境を第一に考える。子供たちがたくましく、力強く育っていく。魅力のある大人になっていける環境の在り方というのを、やはり最優先、第一に考えることでありますし、そう思います。その上で、やはり地域力というのを、やはり何とか維持していかなければならないという、これを少しでも両立できるようなバランスを取っていく方策というのを考えるのが、私の立場だと思っています。

それで、作手地区について、私が思うことなんですけれども、作手地区は、やはり合併前の作手村ということで、地勢的にもやはりこの新城地区から標高500メートルぐらい登ったところ、どういったらいいんですかね。少し、かなり地域性が違う場所にあるという、そういう特殊な事情があります。

それから、有教館高校の作手校舎があるという、高校があるという、そういう事情があります。今高校の存続も、大変厳しい状況にはありますけれども、こういう事情があります。

それで、作手地区の議員の方からは、義務教育学校を考えてみたらどうだという、こういう意見も、発言もあります。

その作手地区の地域性を考えると、先ほどいただいた資料で、やはり中学校では作手中学校が早急に再編・存続の協議を必要とする学校ということで挙げられていますけれども、ここはちょっと慎重な検討が必要かなというふうに、私は思っています。

それと、鳳来地区の小学校については、私東陽小学校区なんですけれども、もう本当に東陽小学校校区、少子化が著しいんですよ。この先を見てももう明らかなんですけれども、こうした事情も踏まえて、鳳来地区やはり、全小学校一つに将来展望を見据えて、どうするかっていうことを、一番目に鳳来東小学校をまず、ということではなくて、もうそれと一緒に他校についても考えるということが、教育委員の皆さんからもご意見出ましたけれども、それがやはり必要だと思います。

そして、それと、こども園の再編整備の計画ができました。それでこの間、この春先ぐらいに、私、東郷東こども園、地域のお祭りに呼ばれて行って、その場で地域の区長さんとか役員の皆さんと懇談する機会を持てたんです。それで、やはり関心事項に、こども園の再編整備がございまして、どんなふうに意見言われるかなと思ってたら、やはり園児の数を見て、もう数字を見てもう現実的に判断されてるというのが、直感的な印象でした。それはもう致し方ないって言い方、よくないかもしれませんけれども、これもう現実的に考えざるを得ないだろうという意見が、非常に冷静な意見をいただいております。

また保護者の方はまた違うかもしれません。話は聞いてませんので。ですので、やはり小学校中学校の現状と、それから今後6年後、さらに12年後も含めて、この数字をしっかりとまず、保護者の方、地域の方にできるだけ早く、こういう現実があると。その上で、市の教育委員会としての望ましい教育環境の一つの物差しとしての指針は、こういうものであるということを示すことによって、現実的な判断をしてくださるのではないかなというような期待もあります。これは、こども園再編を受け止めた地域の皆さんの声を聞いて、そんな感触を持っております。

ですので、私、今日皆さんからいろいろ、皆さんにいろいろと発言、またご議論をいただきまして、一つの望ましい教育環境として、小学校・中学校の在り方を、まず今日提示していただきましたので、これでいいのかっていうことを精査していただいた上で、これを軸に、やはり次のステップに進んでいくことが、地域の子供さん、そして保護者に対する責任の果たし方かなというふうに思っておりますので、私が皆さんのいろんなご意見も踏まえて、そのような今日考え方を、皆様と共にさせていただきたいというふうに考えております。

○職務代理者

ありがとうございました。非常に分かりやすくお話しいただきまして、考え方がまとまってきたかと思えます。ありがとうございます。

お願いいたします。

○教育長

今、市長のご発言を拝聴しまして、作手地区で、作手地区には、こども園、小学校、中学校、3つまとめて、コミュニティスクールということで、学校運営協議会という制度が、平成29年からあります。地域で学校のことを考えているということで、もし、これ今後教育委員会がこういう方針でということを出します。でも、基本的には、学校運営協議会で話をさせていただくという方法をとれば、非常に話がしやすい体制にはなってくる。

メンバーも、保護者、PTA役員含めて保護者と地区の区長さんとか、あるいは民生委員の方とか、そういう方も入っていて、地域の意見も集められる。比較的冷静に、子供の将来のことを考えて話合いができる場だと考えています。

現在、単独で、黄柳川小学校と鳳来寺小学校が学校運営協議会を持っています。それと、新城小学校が今年から、千郷中学校が来年からということも聞いてます。

新城市全体で、もうそれぞれの中学校区ごとぐらいに、将来像を考えて話し合っていく場を設定したほうがいい。それが最終的には学校にとどまらず、その地域の将来を考えるということにもつながって来ると思います。

自分の青写真ではありませんけれども、考えとして述べさせていただきました。

○職務代理者

ありがとうございました

これからの進め方も含めて、教育長さんから今、お話をいただいたというところですけど、質問とかご意見がありましたら、お願いしたいと思います。

○教育委員

いいですか。

○職務代理者

はい、お願いいたします。

○教育委員

市長の話の中で、学校の子供たちの環境、それと地域の地域性、その2つをバランスよく整えて、話し合っていくべきだという市長のお考えは、僕はよく分かりました。

また、教育長の言われた学校運営協議会を使って、中学校区6つの地域で話し合っていて、それで保護者と地域の人がどう考えるかという流れも、いいと思います。

そのために教育委員会が何を提示するか。ここがやっぱり一番大事なところです。教育委員会の考え方と児童数の推移の資料は提示すべきことだと思います。

○職務代理者

ありがとうございます。現時点においても、一部の小学校については、教育委員会からそういった話合いの場を設けて進めているということでもありますけれども、もっと広い範囲において、そういうことを進めていく必要があるということですね。

本日予定されております時間は、ほぼ1時間半ということなんですけれども、この議題について、大方の内容について、市長さん、教育長さんからお示しいただきましたので、ここで一旦切りとさせ

ていただいでよろしいでしょうか。すいません。また継続的な研究を検討させていただくということで、よろしくお願ひしたいと思ひます。

それでは、その他に移らせていただひきたいと思ひます。

その他で何かござひましたら、お願ひしたいと思ひますが。

では、特にないようでありますので、本日は貴重なお時間をいただきまして、ありがとうございます。

これで本日の新城市総合教育会議につきましては、閉会とさせていただきます。

次回の総合教育会議ですが、令和6年11月に開催を予定しております。またよろしくお願ひしたいと思ひます。

以上で、総合教育会議を終了させていただきます。

本日は誠にありがとうございました。